

「学校はどのような手だてで地域に誇りをもった人材の育成をしているのか?」といったご質問を受けることがあります。これまで、町内小中学校では『地域学習』という領域や教科指導の中で、地域の皆さま方の協力をいただきながら伝統文化の継承活動や地域の成り立ちについての学習を続けてきました。

しかし、町内小中学校が横のつながりや縦のつながりをもって、系統的に整理された取り組みではなかったという反省から、昨年度に全小中学校の『地域学習』の計画を1冊の冊子にまとめました。

これがサブタイトルにある「高千穂グローバル」になります。

ジオス GIAHS(世界農業遺産)の再認識から

平成27年(2015)に国連の専門機関であるFAO(国際連合食糧農業機関)からGIAHSの認定を受けてから7年が経過をしました。この間、さまざまな啓発活動やキャンペーンなどを通して、一定の理解と認識は深まったものの、認定されたことの重みや意義、また今後の継承や活用の在り方については、まだまだ啓発や取り組み強化が必要と感じています。そこで、教育委員会では、各小中学校が長年取り組んできた『地域学習』の学習目標に、GIAHSに認定された際の厳しい認定基準を当てはめ、発達段階や他教科との関連において指導事項を整理・再編集しました。

FAOが認定に向けて示してきた5つの基準は以下の通りです。

■GIAHS認定の5つの基準

1. その地域の農業によって食料及び生計が保障されている。人が飢えたり失業したりせずに生活ができている。
2. 生物多様性が豊かである。その地域の農業によって作り上げられた自然が世界的に重要なものである。
3. その地域の農業を持続的に営むために培われてきた自然や技術、組織などに関する伝統的な知識体系があり、それが現代に継承されている。
4. その地域で農業を営むために培われてきた文化、価値観及び社会組織がある。その土地で農業を持続してきた経験が、地域の文化や誇り、風土として根づいている。
5. その土地の農業を持続的に展開してきた結果が1つの景観(ランドスケープ)としてまとめ、その持続可能性と説得力をもって伝えている。

5つの基準をお読みいただくと「多様性」や「持続的」などの言葉が多く使われているのが分かります。子どもたちが学習しているSDGsにもつながる要素から基準が構成されていることが見て取れます。

近年、話題とされることが増えてきた持続可能な町づくりを考えていく上で、中山間地であるふるさと高千穂(郷)の歴史を知り、先人たちの取組に感謝をし、現在の諸課題に対して「自分ごと」として解決にかかわろうとする人材を育成することが、今を生きる私たち大人の務めであると考えています。

本年度より、「高千穂町地域学校協働本部」を立ち上げ、田尻隆介さまを統括とした7人の方に「地域学学校協働活動推進員」を委嘱し、各学校が取り組む地域学習への協力・支援をお願いしておりますが、「地域に誇りをもたせる教育」を推進するためには、多くの町民の皆さんの協力が不可欠ですので、未来の高千穂を支える子どもたちの育成にお力添えをいただきますようお願いいたします。



田原小学校の稲刈り体験



上野中学校の伝統芸能継承活動

竹 SDGs の取り組み 5/26 刀で作ったストラップ

県立延岡しろやま支援学校高千穂校の生徒(3人)が、高千穂高校剣道部員が使用し、傷むなどして廃棄された竹刀を利用したストラップを作成。日頃の感謝と県高校総体の健闘を祈り、野口貴志監督ら指導者3人と剣道部員43人に贈呈しました。

ストラップは、廃棄された竹刀を見た生徒の「もったいない」との声から、金丸洋和教諭が考案。竹刀に彫られた文字の部分^{かなまる}を長さ10cmほどにカットしたものを研磨し、穴を開けて紐が取り付けられおり、生徒の気持ち^{まなえ}がこもった一品に仕上がりました。

ストラップを手にした部員らは、出来栄えに感激。矢野好輝^{こうき}主将は「悔いの残らないよう、これまでの成果を出し優勝する」。泥谷奈音^{な お}主将は「どんな状況でも、焦らず、諦めず、全力で優勝を目指す」と大会への意気込みを語りました。

製作をした飯干愛絵^{まなえ}さん(上野)は「穴を開けるところが大変だった。優勝を目指してがんばってほしい」と話しました。



運 優勝目指して 5月 動会・体育大会開催

5月21日、高千穂中学校で体育大会。28日、上野小中学校で合同運動会が行われました。

昨年同様、早い時期での開催となり、練習や準備など大変でしたが、一致団結し優勝を目指してこどもたちの熱戦が繰り広げられました。



ク 地域学習 4/27 マガイソウの自生地

上野中学校の1年生(4人)が、押方の鳥屋岳にあるクマガイソウの自生地を訪れ、地域学習を行いました。

自生地を所有する「高千穂森の会」^{よしお}興侶幸男会長の案内により、クマガイソウやエビネ、シャクヤクなどの草花や整備された杉林を見学。間伐や枝打ちなどの整備状況の違いによる山の状況や植物の生態などについて、話を聞きながら山や森林の大切さを学びました。

戸高加宝^{かほう}さんは「普段は見る事ができないクマガイソウやいろいろな植物を多く見る事ができた。幸男さんに多くのことを教えてもらい勉強になった」。

坂本勇誠^{ゆうせい}さんは「めったに来ることができないのでよかった。自然の中にも面白いことがたくさんあり勉強になった」と感想を述べました。



サ 収穫が待ち遠しい 5/23 ツマイモの苗植え

上野小学校の1、2年生(23人)が、サツマイモの苗植えを行いました。

マルチシートに穴があけられ、苗を植えるだけとなった学校裏の畑は、地元の農家(保護者)の方たちが準備。当日も苗差し棒の使い方を教えながら、苗の植え方を指導しました。

子どもたちは、1つ1つ丁寧に苗を差し込み、準備された約200本の苗をあっという間に植え終わりました。10月末に予定される収穫を楽しみにジョウロやペットボトルでの水やりまでがんばって行いました。

